

気候変動 ストップ石炭火力発電 行動を

阪田 留菜さん(フライデーズ)インタビュー



11月6日、新宿駅南口で行なわれた行動でコールをリードする阪田さん

「熊谷市で観測史上最も高い41.1℃」「雲仙岳で24時間雨量が観測史上最大となる571.5mm」。近年、日本でもかつてなかった気候の変動が常態化しています。昨年10月31日から2週間、英国グラスゴーで国連気候変動枠組条約第26回締約国会議(COP26)も開催されました。気候変動に危機を感じ、若者が立ち上がっています。フライデーズ・フォー・フューチャー・ジャパン(以下、フライデーズ)の阪田留菜(さかたなるな)さんに話を聞きました。

中、高、大学生と若い世代でカラフルにアピール

「フライデーズ・フォー・フューチャー」について教えてください。阪田さん スウェーデンでのこの活動はヨーロッパ中心に広がりました。日本では2019年2月、ある環境NGO(非政府組織)でインターン(非政府組織)でインターンをしてきた学生が中心になり、スタートしました。フライデーズでは、街頭での集会や経産省前での抗議行動、デモ行進などを行なってアピールしてきました。コロナ以降はツイッターデモを行なった

りしました。気候変動は深刻な問題ですが、フライデーズは中学生、高校生、大学生と若い人が活動の中心なので活動の見せ方は派手というか、カラフルな感じでわいわいアピールしています。SNSで「私も活動したいです」と来れば、「どうぞ、自由にアピールしましょう」という感じ。若い世代でバクと広がるなと手ごたえはあります。

水没したサッカー練習場 日常奪われて実感

「阪田さんが気候変動に関心を持ったきっかけとその後の活動ぶりを教えてください。」 阪田さん 6歳ぐらいからサッカーをやっていました。高校時代の練習場だった江戸川の河川敷のグラウンドが、2019年秋の台風で水没し、1カ月ほど使用できず、サッカーの練習も体育祭もできな

せんでした。自分たちの楽しみ、日常を気候変動が奪うのだと実感しました。その後、フライデーズが気候変動を止



阪田留菜さん

「フライデーズの活動で、政治への働きかけをあげています。昨年の総選挙の結果をどのように見えていますか。」 阪田さん 今回が初めての投票でした。私は、特定の支持政党はありません。選挙結果というより選挙中から、全体的に見て、気候変動対策を最優先に考えてくれている政治家がほとんどいないことにショックを受けました。政治家

「やめる」決断のとき すべての世代で声あげよう

「フライデーズの活動で、政治への働きかけをあげています。昨年の総選挙の結果をどのように見えていますか。」 阪田さん 今回が初めての投票でした。私は、特定の支持政党はありません。選挙結果というより選挙中から、全体的に見て、気候変動対策を最優先に考えてくれている政治家がほとんどいないことにショックを受けました。政治家

「今日は、お話をきかせていただき、ありがとうございます。」

「やめる」決断のとき すべての世代で声あげよう



住友商事に対してバンクラデシュでの火力発電所建設を中止するように要請するフライデーズのメンバー

めようとテモをしているのを見て、「ああ、こんなふうな訴えをやる方がいるのだ」と。それから1カ月半ほど、環境保全団体WWFジャパンの書籍や『気候カジノ』(ウィリアム・ノードハウス)を読んだり、学校の授業で勉強したうえで、フライデーズのデモの後のアフターパーティーに参加して、活動に加わりたいと伝えました。まだ高校生だったので大学生について回って、主にツイッターやインスタグラムの投稿を考えたりしていました。コロナ後

「やめる」決断のとき すべての世代で声あげよう

「やめる」決断のとき すべての世代で声あげ